

12

地域の方への理解啓発

～「生きる力の基礎」の視点を活用し、就学前教育の内容を伝える～

<活用のポイント>

- ・ 3要素や8視点の意味や内容を説明する資料を、イラストなどを使って分かりやすく作成する。(ハンドブック P.91 参照)
- ・ 園生活や遊びの場面の写真に、子供が経験している内容や子供の言葉、保育者の願いを簡潔に記述し、★**学びの芽生え**、●**人とのかかわり**、▲**生活習慣・運動**のマークを添えた資料を作成する。(ハンドブック P.92 参照)

学校運営連絡協議会や入園説明会などで、就学前教育の内容を分かりやすく伝えます。



保育者

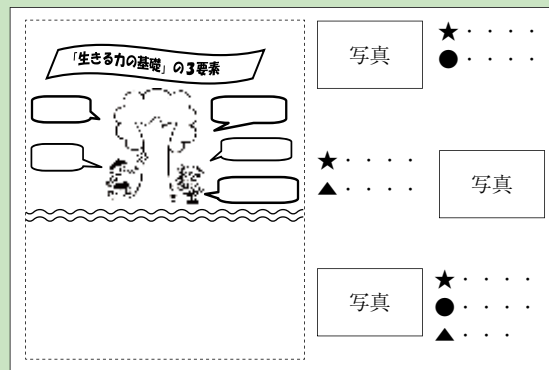
地域の方

<活用の手順、方法など>

- 1 園での生活や遊びの様子を伝えるために、取り上げる場面や内容を、話す方の状況に応じて検討する。
- 2 配布資料として『「生きる力の基礎」の3要素の説明』を準備する。「1」に適した写真を選び、一緒に掲載する。
- 3 資料を示しながら、「生きる力の基礎」を育てることの重要性や小学校教育との連続性について、生活や遊びの場面を通して具体的に説明する。

- ※ プレゼンテーションソフトを使用して、写真や子供の経験内容などを示しながら説明することもできる。
- ※ 未就園児の保護者を対象とした入園説明会等の会場では、「園生活の様子が分かる写真」や、「家庭で準備してもらったものが実際に使われている様子の写真」なども掲示しておくことで、理解を深めることができる。

<資料の構成例>



<活用で期待される成果>

- 園における教育内容を「生きる力の基礎」の視点から整理し、生活や遊びの場面の写真とともに説明することにより、保育が意図的・計画的に行われていることや、小学校教育との連続性についての理解が得られやすくなる。
- 学校運営連絡協議会などにおいて説明した視点を学校評価の視点と連動させることにより、評価者が就学前教育の内容を理解した上で学校関係者評価を行うことができる。

13

保育所・幼稚園・小学校合同研修会

～共通の視点をもって、教育内容や子供の発達を理解する～

<活用のポイント>

- ・ハンドブック P.11の「乳幼児期の子供の発達に応じて確実に経験させたい内容の視点の趣旨」を共通の視点の参考として、そのまま活用する。
- ・研修のねらいや参加者の関心に応じて、**8視点**の中から、1～2視点を取り上げる。

共通の視点を基に保育や授業を参観したり、協議をしたりすることを通して、相互理解を図ります。



保育者

小学校教員

<活用の手順、方法など>

- 1 当日の指導案などとともに、「本日の視点」として、P.11の「乳幼児期の子供の発達に応じて確実に経験させたい内容の視点の趣旨」の該当する視点に○印を付けたものを、別紙【参考】として配布する。
- 2 公開保育や公開授業の後、ワークシート（次ページ参照）などを使って、個人作業を行う。
- 3 小グループで、「2」を基に協議を行う。
- 4 各グループで話し合ったことを、全体で報告する。
- 5 進行役（又は助言者など）は、「4」を受けて、「その時期の子供の発達」「保育所・幼稚園等、小学校それぞれの指導の内容」「接続期に必要な指導」などをまとめ、参加者間の共有を図る。

※ 協議のみを行う場合は、自校（園）の保育や授業の中で、当日の視点に該当する場面を想起して、ワークシートに記入し、協議する。

※ 園、学校の実態や参加者の関心に応じて、「教室環境」「昼食」「片付け」「所持品の始末」などの視点で協議してもよい。

<例：「規範」を共通の視点にする場合>

【参考】 乳幼児期の子供の発達に応じて確実に経験させたい内容の視点の趣旨

生きる力の基礎	確かな学力につながる (学びの芽生え)	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然と触れ合い、様々な事象に興味や関心をもつこと ・周囲の環境に好奇心や探究心をもってかかわり、遊びや生活に取り入れようとする ・身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する興味や関心をもつこと
		言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現すること ・相手の話す言葉を開こうとする意欲や態度を身に付けること ・生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付くこと ・いろいろなものの美しさなどに出会い、様々な表現することなどを通して豊かな感性をもつこと
		創造	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむこと ・いろいろな素材や表現の手段の特性を知り、表現する楽しさを味わうこと
	豊かな人間性につながる (人のかかわり)	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら行動しようとする ・他の幼児と共に活動する楽しさを味わうこと ・共通の目的が実現する喜びを感じる
		信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の感情や意思を表現すること ・相手の思いや考えを感じたり受け入れたりすること ・人に対する信頼感や思いやりの気持ちをもつこと ・自信をもって行動できるようにすること
		規範	<ul style="list-style-type: none"> ・生活に必要な約束やルールを身に付けること ・よいことや悪いことに気付く、考えながら行動すること ・自分の気持ちを調整すること ・相手を尊重する気持ちをもって行動すること ・自分でできることは自分でしようとする ・見通しをもって行動しようとする ・安全や健康に気を付けて行動しようとする
	健康・体力につながる (生活習慣・運動)	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・体を十分に動かし、すすんで運動しようとする ・体を動かす楽しさや気持ちよさを感じる
		運動	<ul style="list-style-type: none"> ・競い合う楽しさやみんなで遊ぶ充実感を味わうこと

就学前教育カリキュラム（平成23年3月）から

<活用で期待される成果>

- 視点を示し、その趣旨を確認して実践を振り返ることで、保育者と教員が共通の視点から子供の発達や指導の内容について考えることができる。
- 共通の視点及び就学前教育と小学校教育との連続性に焦点を当てた協議を行うことにより、保育者と教員が相互理解を図ることができる。

<ワークシート例>

幼児、児童の発達及び保育、教育の連続性を捉えるために

～就学前教育カリキュラムの視点を活用して～

1 本日の参観場面

_____ (歳児・学年)

_____ の場面

共通の視点「規範」から捉える

※視点の趣旨については、別紙【参考】を参照

2 「1」の場面の中で、「規範」につながる子供や指導者の姿を具体的に記述する。

就学前教育と小学校教育との連続性を考える

3 「2」で挙げた姿が、小学校（又は保育所、幼稚園）での子供や指導者の姿とどのようにつながっているか（又はどのような点が違うか）を考える。

* 幼児と児童の交流活動を参観した場合

「2」で挙げた姿から、幼児、児童がそれぞれに体験していることなどについて考える。

14

保育所・幼稚園合同研修会

～「指導例」を活用し、子供の経験や保育者の援助を協議する～

<活用のポイント>

- ・カリキュラムに掲載されている「**指導例**」の項目（「環境の構成」「子供の姿」「経験している内容」「援助のポイント」）を、順を追って使いながら事例研究を進める。
- ・全員が「生きる力の基礎」を意識して協議に参加できるように、**3要素**を使ってワークシートを作成する。

「指導例」を共通の資料にすることにより、保育所や幼稚園等の保育者が一緒に、幼児理解や援助の手だてを検討し、共通理解を図ります。



保育者

<活用の手順、方法など>

- 1 「指導例」の中から、担当する子供の年齢や時期などを考慮して、研修担当者の一つを選択する。

～個人ワーク～

- 2 「環境の構成」「子供の姿」を読み、場面を把握する。（読み合わせても、各自で読んでもよい。）
- 3 「2」の場面から、3要素に沿って、子供が経験している内容を考える。その際、カリキュラムの本体は参照せずに各自でワークシートに記入する。

～グループワーク～

- 4 子供が経験している内容及び育てたい姿についてグループごとに協議する。
- 5 カリキュラムの該当ページに記載されている「経験している内容」を参照し、協議内容と比較、検討する。
- 6 「指導例」のその後の保育の展開について、該当する期の「保育・教育課程」を参照しながら協議する。
- 7 必要に応じて、協議内容を全体で共有する。

<ワークシート例>

4歳児Ⅱ期「指導例」の活用（ハンドブック p. 85 参照）

4歳児Ⅱ期 指導例「フルーツバスケットは楽しいな」
<△班> ○○保育園：氏名 ○○幼稚園：氏名 …
1 「子供の姿」を読み、子供が経験していると思われる内容を整理してみましょう。
★学びの芽生え（思考・言葉・創造）
●人とかかわり（協同・信頼・規範）
▲生活習慣・運動（基本的な生活習慣・運動）
2 育てたい姿を挙げてみましょう
3 《この後の保育の展開を考えてみましょう》 環境、準備する物、援助など

<活用で期待される成果>

- 共通の「指導例」を使った協議を通して、園の実態や保育者の経験などにより、様々な考え方や保育の方法があることを知り、それぞれの保育の見直し、改善につなげることができる。
- 経験している内容や育てたい姿などを3要素に沿って整理することにより、その時期に必要な経験や援助への理解を深めることができる。
- その時期に経験させたい内容を保育者が共通理解することにより、子供の通う施設や保育の方法は異なっても、地域の同年齢の子供たちが就学前に必要な経験をすることができる。